

平成 22 年度
ふるさと海辺フォーラム（仮）開催案

H21.11.5.

■ 開催主旨

海浜自然環境は、オフロード車走行等海浜利用による植生破壊、海浜植物の山菜としての乱採、ごみの放置、波による侵食等、深刻な問題に直面している。海岸法、海洋基本法、生物多様性基本法等では、海岸環境や生態系の重要性が謳われ、保全の道が開かれているが、そのためには、地域住民の海岸への愛着と美しく健全な海岸を創造するための活動や、利用者の海浜環境への理解が不可欠である。

本フォーラムは、各地で活動する団体、個人等様々な立場の人が集まり、海浜環境の持続可能な利用のために、海浜生態系に関する知識及びその保全、回復に関する情報を共有するとともに、地域の海岸に新たな魅力を発見し、地域づくり活動の発展に繋げていくことを目指す。また、マスコミや HP 等を通じて開催内容をアピールし、海浜環境の重要性、保全の必要性を、地域から全国へ広く発信していく。

■ H22 年石狩開催の意義

石狩市では、ハマナス、ハマボウフウ等浜植物群落を地域の大切な自然環境として、市民とともに保護に取り組んできて 20 年が経過した。

石狩川河口の海浜植物保護区は、ハマボウフウ群落が維持されてきたとともに、ハマナスに代表される海浜植物とそこに生息する野生動物により豊かな海浜生態系が保全され、全国に誇れる海浜環境が広がっている。

一方で保護区の外では、増加するレジャー利用により、車の走行が砂丘植生や地形の破壊を招き、また、ごみの放置がひどい状況にあり、利用者へのさらなる意識啓発と、海浜生態系の保全が大きな課題である。これらの課題は、石狩浜のみならず全国各地の海岸が直面しているものである。

平成 22 年は、生物多様性国際会議（COP10）が日本で開催されることもあり、「生物多様性国家戦略」では、自然と共生する海岸づくりや砂浜の保全・回復の推進等、沿岸・海洋の生物多様性の保全が謳われており、石狩浜もその発信地としたい。

本フォーラムを石狩市で開催することは、各地で展開されている海岸保全活動を一層促進するとともに、石狩型海浜植物保護活動の PR の場となり、利用者や一般市民に対しても、海浜生態系を保全することへの意識を高めることが期待される。

■ フォーラム名称について

従来：ハマボウフウ交流会→内輪的なイメージ。「ハマボウフウ」が広く知られていないため、何を対象としたものか、イメージが沸きにくい。

改め：講演会、活動報告、意見交換も含めた集まりであることから、「交流会」→「フォーラム」に変更。

何を対象にしたフォーラムかイメージが沸きやすいような言葉。

「海辺」、「自然」、「海浜植物」、「保護保全」、「活動」、「地域」、「ふるさと」などを組み合わせたものがよい。

■ 主催：石狩浜海浜植物保護センター、海浜植物保護センター運営委員会

協力：センター活動支援ボランティア

■ 開催時期：6 月末～7 月の土日

■ 参加団体：既存の交流団体、海浜植物保護センターで活動する団体

数ヶ月前からマスコミ等を通じて道内を中心に参加を呼びかける

■ 想定参加団体数：従来の交流団体 4～5 団体

新規団体 約 3 団体

■ 参加者数：団体関係者 20～30 名 一般参加者 20 名 保護センター関係者 20～30 名
計 70～80 名

■ 当日行程：

1 日目：開会 14 時～

エクスカーション（保護区・砂丘崩壊地）14 時 30 分～16 時

報告会（第一部） 16 時 15 分～17 時

懇親会（次回開催について決定）19 時～21 時

2 日目：報告会（第二部） 9 時～12 時

講演会 13 時 00 分～14 時 00 分

質疑・意見交換、閉会 14 時 00 分～14 時 30 分

両日とも会場でパネル展示

■会場：本町地区

■予算：講演会講師謝礼、ちらし・ポスター印刷、資料印刷、会場費

■準備行程：

11～12 月 運営委員会、支援ボランティアに協力依頼、内容検討

12～ 1 月 開催要項完成 講演講師決定、会場・宿泊先選定、道内関係団体調べ

1～2 月 ポスターちらし案、

3～4 月 ポスターちらし配布、マスコミ PR、参加団体募集、既存団体へ開催案内送付

4～5 月 募集状況に応じて関係団体へ打診、当日進行・担当等打合（司会決定）

5～6 月 市広報誌、通信誌等で PR、マスコミ PR、当日進行・担当等打合（会場設営等）

6～7 月 参加団体取りまとめ、会場準備等

飛行機メモ

仙台 10：35 - 千歳 11：50 → 石狩着 14 時

石狩発 15 時 → 千歳 17：45 - 仙台 18：55